会長の時間　　●片岡会長

やさしい日本語講座できづいたこと

例会でお話し頂いた、たつの市国際交流協会・馬島（まじま）さまとのご縁で、8 月 25 日に当会から伊藤・神名・永富・本條会員と共に『こども日本語支援入門講座』に行ってきました。講師は、神戸 TWCA・福井武司先生。

日本在住の外国人の方々（在留者）が望む言語は、『やさしい日本語 76%・日本語（普段意識せずに使う言葉）22%・機械翻訳された母国語 12%・英語 58%・非ネイティブが訳した母国語 10%』との事でした。確かに「郷に入れば郷に従え」です。

『やさしい日本語』の例を御紹介します。

●短く話す

…は…です（仕事はコックです）

…は…ません（仕事はコックではありません）

…は…ます（私は食べます）

…は…ません（私は食べません）

●ほかにも

・結論から言う（例）静かにしてください。

・非言語（ジェスチャー・実物・画像・イラスト）を使う

●伝わらない言葉

・短縮した言葉（もいっかい言って（…もう一度話して））

・大人の外国人には、擬音を使わない。（子供には使う）

・『感性や感覚に訴えかける言葉』（いつもより早めに…）

在留者のみならず日本人に対しても（社員に対しても）、『やさしい日本語と非言語』を使って、誤解を生まない会話に努めたいと思いました。

参考/在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン（文化庁）

在留支援のためのやさしい日本語ガイドラインほか ｜ 文化庁（bunka.go.jp）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/92484001.html

情報委員会アワー　　●本條情報委員長
「ロータリーの価値とクラブが果たすべき役割」

クラブに於いて近時その存立目的が曖昧になっているのではないか、との問題意識から、今般の情報委員会アワーでは、クラブの第二創業ともいえる転換期にあって、次なる求心力を何に求めるかを皆で考える機会として、「ロータリーの価値とクラブが果たすべき役割」というテーマでディスカッションを行い、下記の通り、クラブの歩みを振り返ると共に目指すべき将来像を展望しました。

各テーブルの進行は、今年度 IM のクラブ発表に向けた勉強会「Rotary's Value 研究会」のメンバーである中村会員、池田会員、段会員にご協力を頂きました。

1.先人の描いた夢とクラブの歩み

(1)クラブ創立の経緯・趣意

- 1957 年、姫路商工会議所・龍田会頭（姫路 RC）が龍野商工会議所・横山専務理事に声をかけ、淺井　博氏ほか 4 人が創立キーメンに。
- 1958 年 6 月、姫路 RC・斎木亀治郎氏（後の創立特別代表）と面談。「違った職業に従事する良識有る人々が集まって、町を（上下関係ではなく）水平に繋いだ社会を作り、みんなの力で町の人々の幸せを増進しよう、というところにこの組織の良さがある」
- 1959 年 4 月、創立総会。創立会員 26 名、平均年齢 51 歳。翌年 5 月のチャーター伝達式には各新聞社および地区内外関係者含め、遠方からも多数参加。
- 商工会議所をベースに、地域の発展と世界平和の志を持った地元経済人の、社交並びに地域貢献の場として創立。

(2)組織文化

- 姫路 RC の指導に忠実に「堅苦しいくらい優等生的」な管理運営。一方で当初から、全ては友愛・融和の上に成り立つと考えて、内にあっては会員相互の親睦、外に対しては謙虚（エリート意識を慎むこと）を活動の根底に置いた。
- 爾来「親睦こそ我がクラブ」をモットーに「品位と秩序」「堅からず、柔らかすぎず」「心地よい緊張感」がクラブの文化となって、受け継がれる。

(3)発展の歩み、果たした役割

- 日本経済の成長を背景に、創立当初から活気に満ちた雰囲気で、親睦・周年行事も大がかりであった。夫人・家族の多数参加も見て取れる。ハイライトは 1975 年 10 月、RID368 地区年次大会主管と SL 寄贈。
- 10 周年頃までの例会卓話は、マスコミ、行政・教育機関、銀行ほか外部専門家によるスピーチが多い。会員の人脈と思われる。
- 活動の基調理念は「決議 23-34」に見られるようなオーソドックスなロータリー奉仕観…「ロータリーは、ロータリアン個人が自分の個人生活や職業生活・社会生活を通じて世の中の為に尽くそうという、ロータリアン自身の奉仕精神を啓発しようとするものであり、クラブは

奉仕の理論を集合的に研究・実践し、ロータリアンは勿論、それ以外の人達へも奉仕精神を啓蒙しようとするもの」

- 奉仕精神の涵養に基づく「個人奉仕」を旨としつつ、社会ニーズに即した対外奉仕活動にも大いに尽力した。
- 往時の継続事業としては①雨傘奉仕、②時間励行運動、③国旗掲揚運動、④母子寮訪問、⑤環境美化・交通安全、⑥社会奉仕賞・職業奉仕賞、⑦優良従業員表彰、⑧ボーイスカウト支援、⑨「はりま自立の家」支援など。事業規模は現在の価値に換算して毎年 2〜3 百万円か。
- 1960 年代から国際親善にも積極的だった。例えば、①外国からの学生使節団や GSE の視察受け入れ、②欧米 RC との交換学生事業を姫路 RC 中心に自主運営、③1979 年 4 月、20 周年事業として国際児童年にちなみ、英国ウインザーアンドイートン RC との共催で「日英児童画交換展」を実現。渡航・通信・言語のハードルが高かった時代にあって、並大抵のことではなかったと思われる。
- 重鎮会員の指導力のもと、地元リーダー同士の切磋琢磨、得難い学びと修養の場に。会員の日常生活を通じて、職場に高潔と利他の精神を普及、事業所の発展を後押しした。
- 発展過程に於いて、(A)会員増強→(B)活動の拡充→(C)誇りの醸成　の好循環が働いた。

(4)近年の状況

- 2000 年以降、日本経済の「バブル崩壊」「失われた 20 年」を経て会員数・活動レベル・事業規模がピークアウト。地域社会の少子高齢化も相まって対外的事業が低調に。
- 新たな求心力を創るには、今の時代にマッチした活動内容やブランディング手法を練り直す必要がある。

2.ロータリーらしさ（ロータリーの特徴的要素）

(1)親睦 Fellowship

- 友愛を土台とした良質な職業人の集い…「ロータリーは先ず親睦ありき（深川 PDG)」「君子の交わりは淡きこと水の如し」

(2)高潔さ Integrity

- 職業倫理の重視
- 「道徳律」「四つのテスト」「ロータリーの綱領」「職業宣言」が提唱する高潔性…「汝の名を汚すなかれ（米山梅吉)」

(3)多様性 Diversity

- 際立った国際性…海外交流のハードルが高かった時代から、ロータリーの友愛と世界平和の願いをベースに国際色豊かな活動を実現
- ローカルからグローバルまで、子どもから大人まで、職場から社会全体までカバーする活動分野の幅広さ
- 多様性を受け容れる寛容の精神…「ロータリーとは『寛容』である（ポール・ハリス)」

(4)奉仕 Service

- 思いやり（忠恕）の心と個人奉仕（利己と利他の調和）を基本とするユニークな奉仕哲学
- 生活万般への奉仕理念の適用…「ロータリーの根本精神は、奉仕の理想にある。随って、この奉仕の理想は吾々の一切の生活の中に、顕現されていなければならぬ。も少し徹底的に言えば、一切の生活が奉仕の理想の中に没入している姿が最も理想的である（森　光繁著『ロ

ータリーの本』)」

・ 外形以前に心の在り方…「吾々が一切の生活を奉仕の理想の中に入れるには、結局其人の精神生活に支配されるのであって、人柄が出来ているか否かが問題である。奉仕と云うことは形の問題ではなく、心の問題である（同上)」

(5)リーダーシップ Leadership

・ 社交クラブでありながら、人づくりを趣旨としている点…「ロータリーの本義は人づくりにあり（ウィリアム・ロビンス)」「例会は人生の道場（米山梅吉)」「入りて学び、出でて奉仕せよ」

・ ロータリーとは自分を磨き、人を育てるところ

・ ゴミを拾うこと自体ではなく、ゴミを拾う人を育てることが主眼

3.クラブが果たすべき役割（地域のニーズ）

(1)社交・人脈構築

・ 地元経済人の親睦・信頼をベースとした、社会貢献のためのネットワークづくり

・ 世代を超えた価値観の共有・継承

(2)社会奉仕

・ 家庭、職場、社会へのロータリー奉仕理念（忠恕精神）の普及

・ 社会ニーズが多様化し、それに対して多くの地元諸団体や NPO などが展開する中で、当クラブとしては他団体の後方に回って、スキマ分野の活動を支援しては。

・ 積極的・効果的な広報活動による市民の関心喚起、課題認識の共有

(3)研鑽機会

・ 物事の見方・人生観などの多様性を含む幅広い人生勉強の場、リーダーの学び舎

・ 自分を見つめ、「心の居住まい」を正すための非日常性　→例会場の雰囲気・空気感が大切

Rotary's Value 研究会では、今般のディスカッションを踏まえ、クラブが目指すべき将来像について更に議論を深めていく予定です。

皆様には熱心なご討議を賜り、誠に有難うございました。